



No. 49
2016 Winter

山 松 舎
寺 南 臨

特集

道元禅師ものがたり

22



若き執権 北条時頼と出会い、
永平寺への思いがさらに強くなりました

執権に就任したばかりの時頼

道元禅師は、宝治元年（一二四七）八月から翌年二月までの六か月間、鎌倉で過ごしました。道元禅師四十七歳の夏のことです。
道元禅師を鎌倉に招いたのは鎌倉幕府の第五代執権の北条時頼です。時頼は寛元四年（一二四六）に十九歳の若さで執権に就任します。就任して間もなく宝治合戦が起こり、評定衆を牛耳っていた最大の敵、三浦氏を攻め滅ぼ

してしまいました。その時の死者は五百人以上といわれます。

それをきっかけに幕府をまとめていく時頼ですが、若き執権には難問が立ちほだかり、一族同士が殺しあう戦いの明け暮れにも疑問を感じていました。

時頼に菩薩戒を授けます

若い時頼の悩みを聞いた道元禅師は、「善を行えば天に昇り、悪をなせば地獄に落ちる。悪を投げ捨てて、善を引

き寄せることだ」と論じ、出家するよう勧めました。時頼は道元禅師から菩薩戒を授けられます。出家するまでには至りませんが、「道崇」という法名を与えられました。時頼は後年出家しますが、その時この法名を名乗りました。

道元禅師は、時頼と夫人の求めで和歌を十首詠みました。その一首が有名な「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪冴えてすずしかりけり」です。この歌には「本来面目」という題がついています。清くすみきった境地と本来備わっているありのままのすがたの大切さを説く禅の思想が溢れています。

時頼からの要請にどう対応するか

宝治二年（一二四八）の年があけたある日、道元禅師は時頼からこんな要

請を受けます。「鎌倉に禅寺を建てたい。それも京の建仁寺に匹敵する立派なもの。ついては禅師様に開山をお引き受けただけませんか」。時頼は道元禅師の禅風を気に入り、そばにいて相談相手になってもらいたいと考えたのです。

しかし、禅師には「権力者に近づくな」という師の教えがあります。しかも、今は永平寺で正伝の仏法を伝えるための弟子の養成に取り掛かったばかりの大切な時期。鎌倉に長逗留するわけにはいきません。

そこで禅師は二年前に宋から渡ってきた蘭溪道隆を大宰府から呼び寄せ、時頼に推挙しました。蘭溪道隆は道元禅師と同じ天童景德寺で修行した同門の弟子。時頼も気に入り、五年後に建立される建長寺の開山になるのです。

それでも収まらない時頼は、越前の国にある二千石の土地を永平寺に寄進します。道元禅師は受け取るのでしょうか？ その話は次回といたしましょう。

新しい年の初めにご家族そろって

弁財天祈禱会にお参りください

臨南寺では二月十五日午前十時から、本堂において弁財天祈禱会を修します。

弁財天様は七福神のお一人で、商売繁盛、合格祈願、芸能上達に靈驗あらたかといわれます。客殿「圓通閣」の一角に今年、弁天堂が再興されました。臨南寺の弁財天様は古くから地域の守護神として信仰されてきました。

弁財天祈禱会では、『大般若波羅蜜多經』六百巻を転読いたします。この経典は、『西遊記』で有名な玄奘法師が馬二十数頭に背負わせてインドから中国へ持ち帰り、四年間かけて漢訳したもので、古来より大きな靈力を持つと信じられております。

ご参拝の皆様とともに、新しい年が安らかで穏やかでありますよう、また世界から戦争や災害が少なくなりますよう、ともに心を

込めてお祈りいたしましょう。皆様の無病息災・家門隆盛・家内安全を願つて、お札、お守り、破魔矢をお授けいたします。

法要の前には護国寺の会計報告、総代さんのご挨拶がございます。法要の後には温かい甘酒の振る舞いもございます。皆様の厄を払い福を招く弁財天祈禱会に、ぜひご家族、お友達を誘い合わせてお参りください。



お一人、おひとりの無病息災と家内安全をご祈念いたします

寺景 臨南 百景



弁天堂を

再興いたしました

今年の六月、大本山總持寺貫首の江川辰三猊下を導師に迎えて客殿「圓通閣」の落慶法要が執り行われました。

その圓通閣の入口の手前に再興さ



圓通閣の一角に再興された弁天堂

れたのが弁天堂です。その名も、お祀りしている福寿弁財天様にちなんで、「福寿堂」と名付けられました。「長居郷土史」によれば、この地には早くから弁財天様が祀られて地域の人々の信仰を集めていましたが、戦国時代に戦火を受けて臨南寺に安置されたといわれます。

弁財天様のルーツは古代インドの水の女神様。さらさら流れる川の音から音楽や弁舌の神、つまり芸能や学問の神様、さらには財産の神様として信仰されてきたのです。

臨南寺の弁財天様は八本の腕をお持ちのお姿です。人々に弁才と智慧、財宝、延命を与え、悪夢・邪気などを排除し、病苦や争いなどから身を守るご利益があると言われていま



靈驗あらたかな福寿弁財天様

住職
日誌

今年も様々な法要、

行持がありました

平成二十八年も早いもので

最終の月になりました。

今年は特にそのように感じ

ます。

六月には五日間にわたる報

恩大授戒会を三十年ぶりに

修行致しました。

期間中には客殿「圓通閣」

の落慶法要、先代朴洲剛毅(渡

邊剛毅)大和尚の十三回忌法

要も併修させて頂きました。

横浜の大本山總持寺より江川辰三

紫雲臺猊下にご巡錫賜り、教授師の

山形県永源寺坂部晃宗老師、説戒師

の三重県永源寺吉田高明老師はじめ

各方面大勢の方丈様方のお力をお借

りして、無事圓成させて頂いたこと

ができました。改めて御礼申し上げま

臨南寺 住職 大澤正道



す。

先代より引き継ぎ早くも十二年。

様々な法要や行持などに追われて時

が過ぎてきたような気がします。

来年の平成二十九年は一度立ち止ま

り、今後の臨南寺の在り方をゆっくり

考えながら過ごしてみたいと思ってい

ります。

お気軽にご参加ください

臨南寺行持予定(一〜二月)

弁財天祈祷会(本堂)

一月十五日 午前十時〜十二時

新年を迎えて最初の法要です。新しい年がよい年になりますよう、皆様の厄を払い福を招く法要を修行します。温かい甘酒の振る舞いもごさいます。ご家族、お友達、誘い合わせてお参りください。



釈尊涅槃会(本堂)

二月十五日

お釈迦様が入滅された二月十五日、涅槃に入るお釈迦様のお姿を描いた涅槃図を飾り、供養と感謝の法要を行い、ご入滅をしのびます。

早朝坐禅会

毎月第一土曜日(二月、八月は無し) 午前六時半〜本堂にて

写経会

毎月二十日(八月は無し) 午前十時〜午後三時
写経料・千円

*いずれも急ぎよ中止になる場合がありますので、前日に確認してください。

マトリ合同法要

熊本地震のお話をお聞きしました

境内のイチヨウも鮮やかに色づいた十二月十三日(日)午後二時から、がつしょう園マトリの合同法要が営まれました。法話は熊本県球磨郡の神照寺御住職の岩崎哲秀老師。今年四月に起きた熊本地震のお話でした。岩崎老師のお寺は被災されませんが、青年会の一員として避難所で炊き出しなどの支援に当たられました。そこで感じられたのは極限状況での人間心理の不思議さでした。

「生きていくうえで必要なことは大切な何かを持つこと」「大変な中でも自分より弱い存在、尊い存在を大切にすることがあれば、不思議な安ど感が生まれる」「食べ物がなくとも、自分だけじゃなくみんな我慢していると思えば不満はなくなる」

マトリについても「不思議な安ど光に包まれ、清浄な空気に満たされている」「マトリに来ると亡くなった方と一緒に過ごした時間を分かち合える。亡くなった方に見守られているのを感じます」

法話を聞いた後、マトリに移り、読経のご焼香していただきました。お墓の継承が難しい時代、永代供養のマトリへの入会が増えています。



熊本地震の経験を語られる神照寺御住職の岩崎哲秀老師

年末年始の墓参の

ゴミはコンテナに

年末年始の墓参で出たゴミは、コンテナに入れてください。

墓参でのごみ以外は投棄しないでください。ご家庭で出たゴミはご遠慮ください。

墓苑を美しく清潔に保つていただきますようご協力をお願いします。

年末年始の臨南寺

* 十二月三十一日～一月三日は、寺務所は閉めさせていただきます。
* 三が日の花の販売はございません。

* 一月の早朝坐禅会はお休みさせていただきます。

* 開門は午前五時、閉門は午後九時となっております。

お車で越しの皆さんへ

本年、当寺院の境内地で数件の車両事故が発生しております。境内では最徐行で通行してください。

今後改善される様子が見られなければ、車両の乗り入れを全面的に禁止いたします。

なお、境内地内での事故等につきましては、当寺院では一切の責任を負いません。

最徐行



編集後記

「よその家の芝生は青く見える」と言います。自分にはないものばかり数え挙げては、いつまでたっても満足することはできません。「足るを知る」ことが、心穏やかに生きていくコツではないかと思います。来年もいい年でありますように。(M)

「ほ～っと」49号

平成28年12月

編集・発行： 椋伽林「ほ～っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-667-638

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com